組立～工業包装：　概要

職務遂行のために必要な知識

（概要）

工業包装とは、製造工程の延長として、製品を保護・保存するため、各種の材料で包装する作業をいう。工業包装作業の内容は、一般的には、検品・検査、個装、製函・組立、箱詰・内装、封かん・結束・表示など、製品の種類、流通段階などにより分類される。

（仕事の内容）

工業包装の仕事を作業内容別に見ると、最初の検品・検査作業では、様々な製品を詰め合わせて包装するときに製品の種類、数量が合っているかを確かめる。次に、個装とは輸送用段ボール箱や木箱に詰める個々の製品を包装することである。製函・組立作業では、製品を詰める段ボール箱を組立てたり、運搬したりする。輸出用機械などの包装では、木箱を製作する。箱詰・内装では、製品の種類によって緩衝材を挿入したり、防湿・錆止めなどの内装を行う。最後の封かん・結束・表示作業では、段ボール箱のふたをテープで止めたり、木箱のふたを自動くぎ打ち機で止めたりするほかに、表示用の紙を貼り付けたりする。

このように、工業包装作業といっても、比較的容易な包装作業から、機械操作を含む難易度の高い作業まで様々な仕事の幅がある。

（求められる経験・能力）

（１）　入職に際して、公的資格は特に必要とされない。中学や高校を卒業してすぐに入職する者が中心であるが、最近では中高年者で未経験の者で他職種から転職してくる場合もある。

（２）　技能検定（工業包装）の資格（１級、２級）を取得することで技能が社内で認められて地位が向上することが多い。転職時にも、資格保有者は有利である。

（３）　一般の梱包作業は軽作業が多いものの、それでも力仕事もあるため、健康な身体が第一条件になる。また、比較的に単調な仕事の繰り返しの中で一定の作業能率を維持させなければならないことから、忍耐力と手先の器用さが必要である。

（関連する資格・検定等）

技能検定制度　（職種：工業包装）　特級　　１級　　工業包装作業　２級　（１級に同じ）